

## 第4回 武蔵野市多文化共生推進懇談会会議録（要録）

### 【会議概要】

日 時	令和4年11月15日（火）19:00～21:00
場 所	武蔵野市役所 西棟8階 812会議室
出席委員	薦田委員、新居委員*、田村委員*、木下委員、中澤委員*、ウ委員、田川委員 （*はオンライン参加）
事務局	多文化共生・交流課職員
傍聴人	6名
会議次第	1. 開会 2. 議題 （1）武蔵野市多文化共生推進プラン（仮称）関係者グループディスカッションの実施について（報告） （2）武蔵野市多文化共生推進プラン（仮称）中間のまとめのパブリックコメントで寄せられた意見の取扱いについて （3）令和4年度武蔵野市民意識調査（速報版）について （4）プランの名称について 3. その他
配付資料	資料1 武蔵野市多文化共生推進プラン（仮称）中間のまとめ 資料2 武蔵野市多文化共生推進プラン（仮称）関係者グループディスカッション報告書 資料3 武蔵野市多文化共生推進プラン（仮称）中間のまとめのパブリックコメントと市の対応方針について 資料4 令和4年度武蔵野市民意識調査（速報版） 資料5 武蔵野市多文化共生推進懇談会傍聴者アンケート第3回実施分（令和4年8月17日開催）自由記載欄

### 【議事】

#### 1. 開会

#### 2. 議題

- (1) 武蔵野市多文化共生推進プラン（仮称）関係者グループディスカッションの実施について（報告）

A委員	いくつかのグループで共通して、おそらく外国人当事者の方からだと思うが、「日本の慣習がわからなかった」というのがあって、これはパブリックコメントの中でもかなり取り上げられていて、既にそういった調査をしているかもしれないが、当事者の方たちにヒアリングをする機会を作って、日本に来られて具体的にどういったところに戸惑ったのか意見を集約して、それに
-----	--

	<p>対応するリーフレットを作ったり、講習会、研修会を行ったりするといいいのではないか。当然、日本の慣習に矯正するという趣旨ではないが、不便を感じているのであれば、知っていただいて、その知識を活用するかしないかは自身で判断していただければいいと思う。</p> <p>「外国人スタッフを登用すべき」という意見は検討する余地があると思った。ご存知のように、障害がある方の法定雇用率はあるが、外国籍の方のそういったものは特にない。ただ共生社会を進めていくのであれば、武蔵野市独自でそういったことも考えて、検討してもいいのかなと個人的には思った。</p> <p>それから、この「ビザの関係で思うように働けない」というところはすごく共感するところだが、おそらく仮放免等の方の取扱いは国の枠組みで仮放免の方は働けないということになっているので、武蔵野市独自でというのは難しいのかなと思ったところ。もちろん大きな問題ということは認識している。</p>
B委員	<p>まずグループディスカッションを実施したことは素晴らしいと思う。かなり活発に意見交換がなされた様子が見てとれるので、非常に重要だと思う。</p> <p>今回、外国人市民および日頃外国人市民に接する団体職員等によるグループディスカッションというところが、やや制約がかかっているとは思っており、参加者間の交流を図るという意味では非常に重要だったと思うが、これが市民の皆さんの意見というわけではないということも認識しておく必要があると思った。</p> <p>記録の中でなるほどと思ったのは、12 ページ、「プランを見ると、全体的に日本人が外国人に支援又は〇〇をしてあげると感じる」と、「外国人の力、能力を生かせるプランが必要」と書かれているところがあり、日本人が中心になって作っているということもあると思うが、ここは非常に重要なところだと思っている。一緒にいいまちを作っていく、良い国を作っていくという観点から、いかに武蔵野市に来た外国人の方に力を発揮してもらうかというところは非常に重要だと思うので、全体的に注意をしていく必要があると思った。</p> <p>それから、私の意見に近いと思うので非常にそうだと思うのは、10 ページの「M I Aで行っている日本語教室は、人間関係の構築に力点を置いた、ボランティアによる活動。日本語学習の場は行政が責任を持って用意すべき」というところ。明らかに武蔵野市（M I A）が進んでいることは間違いがなく、本当に素晴らしい取り組みだと思うし、M I Aが果たしている役割は大変大きいと思うが、この意見にもあるとおり、小学校、中学校の段階で来た外国人に対して日本語をしっかりと教え、日本の学校についていけるようにするのは日本国としての責任であり、地方自治体の責任だと思っているの</p>

	<p>で、そこはぜひ重く受け止めていただきたい。進んでいる武蔵野市だからこそ、もうちょっと取り組んでいただきたいと思う。</p>
C委員	<p>報告書7ページの「DV、ヤングケアラー対応の連携が難しい」や、10ページの「たとえ日本語ができたとしても、子育てはそれ自体が難しい」というはそのとおりだし、同じページで「高齢化に伴う対応も必要」という意見も出ていて、こういった市の色々な施策の中に、外国人のことも重なる部分がある。先日ある方から、難病のお子さんをお持ちの外国人の方をケアしていて、今後のグリーフケアをどうしようかとか、ご遺体の埋葬をどうしようかといった話を役所に相談したかったが、役所ではただ通訳をつければいいという処理をされたという話を聞いた。言葉の問題だけではなく、色々な施策や部署が連携して対応していかないと解決しないことはたくさんあるのだと改めて思った。このディスカッションで出ている意見の趣旨を今回のプランに反映させるならば、例えば中間のまとめ15ページの「ダイバーシティの推進に係る他施策との連携」で、施策との連携というより、他部署、他機関、部署間の連携といった書きっぷりが足されていた方がよいし、17ページの「誰もがその人に合った福祉サービスを受けられる体制整備の支援」も、多言語対応を支援するというよりは、他機関との連携といったことが書かれていた方がよいのではないか。</p> <p>もっと前にこの会議で気づいておくべきだったが、グループディスカッションで出た「連携が難しい」、「高齢者も増えている」、「子育てそのものが難しい」といったご意見を反映させるとするならば、ただそれぞれの機関が多言語で情報提供をすればいいということでもなく、あるいは施策が連携しているというだけでもなく、部署や機関が連携する、外国人住民の方の事例に寄り添ったような連携が必要ではないか。もう少し部門、部署、組織の連携ということを表現した方がよいのではないかと思った。</p> <p>もう一つ、報告書の18ページ、高校生向けのサポートがないという話で、どうしても市の仕事だから小中学校に偏ってしまうのは仕方ないのだが、中間のまとめ17ページの「教育機会の確保」では「市立小中学校の児童生徒については」と書いてあり、ここだけ読むと、高校生はほったらかしでいいのかと思ってしまう。どこにどう盛り込むのがいいかわからないが、その後の進学、進路保障というところも少し視野に入れた表現がプランにもあった方がよいのかなと思った。</p>
D委員	<p>全部素晴らしい意見で、共感できるところをピックアップすると、報告書4ページの「やさしい日本語は人によって違う」というのと、10ページの「日本の電話対応は敬語が多い。外国人にはわかりにくい」というところ。個人的にはこの二点が繋がっている。やさしい日本語では、どういう表現を書き</p>

	<p>換えると「やさしい」のか。プランではやさしい日本語について紹介することが大事だと思う一方で、対面で話すときや電話で話すときもやさしい日本語の重要性は大きいと思う。自分が話したことを相手が聞き取れていないとき、繰り返し言うくせが人間にはあると思うが、そこはただ繰り返すのではなく、例えば、重要な単語を強調して言う。きちんと敬語を使う必要はなくて、重要なところだけをゆっくり話す。特に緊急時に外国人と関わることになる人たちに外国語で対応してもらうのは難しいと思うので、外国人に対してどう伝えるのが「やさしい」のか教えるような機会があれば、役に立つと思う。</p> <p>高校生向けのサポートがないという話も、日本の制度について知らなかったので、少し驚いたが、C委員の説明でなるほどと感じた。高校時代は私の人生の中でも大事な時期だったので、ここで色々な問題が発生すると、大人になってからの影響も大きいので、報告書18ページの「私オレンジジュースしか飲めないけどいい？」という返事が簡単で有効というようなことを教えるのはすごく良いと思う。この話も共感できる。</p>
E委員	<p>10名の外国人あるいはMIA職員のコーディネーションをして、参加のお願いをした。また、当日も懇談会委員として傍聴させていただいた。これら参加された方たちは、MIAで市民活動として語学ボランティア、通訳のボランティアをして、困っている外国人の方の相談を受けるときの橋渡しの役割をしてくださっている方なので、自分が困ったことだけではなく、いろいろな外国人の方が困ったことを知っている。そのことを代弁してくださいとお願いをしたので、このような色々な話が出てきたのかなと感じている。</p> <p>子育ても高齢化も、外国人に限らず日本で生まれ育った者にとっても難しいところ。しかも新しい制度ができたり、書類を書いたり、非常に複雑な対応をしなければならない。こうした壁を外国人が越えていくというのは、とても難しいことだと思うので、言葉だけの問題ではなくて、やはり制度の説明や背景にある文化の説明が必要だと思う。その際にただ翻訳するだけではなく、その制度は一体どういうものかをわかりやすく解説することはとても重要だと思う。そうすることで、自分で動いて解決できる方も増えると思うので、サポートする側としては、本当にサポートが必要な方のところに力を集中させることができる。</p>
F委員	<p>このプランの位置づけについて、グループAのディスカッションの中でもいくつか指摘がされている。このプランを作った上で、より具体的なものはまた別のもので作っていくという認識で合っているか。</p> <p>中間のまとめの本文にもその旨書いてあるが、具体的なことも示されていて、でもこれではまだ足りないという状態なので、位置づけの表記を少し工</p>

	<p>夫するとよりわかりやすいというのを、グループディスカッションの意見から確認した。</p> <p>もう一つは、グループディスカッションに参加された方々は、かなり自分ごととして、外国人のことも自分のことも同じ市民として考えた中で発言されていて、大変素晴らしい意見がたくさん出てきていると思う。対等性というのを身をもって感じていらっしゃる方々の発言だと思った。</p> <p>本当はこの対等性は市民同士絶対に必要なものだと思うが、対等性という言葉プランの中で使うのは難しいものなのだろうかというのが私の意見。</p>
事務局	<p>今回のプランの位置づけは、中間のまとめの3ページ「プランの位置づけ」にも記載のとおり、本市の多文化共生推進の基本的な考え方及び施策の方向性を示す指針。施策を行う上での考え方、職員の考える指標といったものだが、具体性の高い記載も部分的にあるので、どうしても一つ一つの具体的な事業が示されていないと実効性がないような印象を与えてしまうかもしれない。基本的な考え方と施策の方向性を示す指針ということでご議論いただきたい。</p>
F委員	<p>指針だということを私も最初理解してなかったし、読んでいらっしゃる方もそこがわかりにくいのだなと感じたので、その旨を最終的なプランではしっかりと書いた上で、これから施策を具体化していくのだという意気込みを見せることが大事だと思う。</p>
G委員	<p>中間のまとめについて議会に報告をした際にも、このプランは予算が紐づくような具体的なものなのかという質問があり、今と同じ内容の話をした。このプランの中には、すでに武蔵野市がやっているもの、具体的に予算がついているもの、具体的にやっているものもあれば、これから新たに作っていかねばいけないものもあるので、それらも含めて、進むべき方向性をプランの中で示すと話しているところ。</p> <p>グループディスカッションに関しては、関係者のグループディスカッションだったので、前提として多文化共生について考えがある方々にお集まりいただいた。多文化共生の意識を持っていない方々に対しても理解を広めていく取り組みをしていかなければいけないということを実感した。痛いところを突かれている意見など様々あるが、皆さんある程度のことを知った上での意見なので、それだけではなく、全然わからない、知らない、こんなことが起きているということを理解していない方々に対する取り組みが本当に必要だということを実感したというのが一つ。</p> <p>それから、繰り返しになるが、先ほどの高校生向けのサポートがないという話。小中学校は義務教育なので市でもある程度のことはできるが、中学校を出た後をカバーできていないというのは、見聞きしているところがかなり</p>

	ある。やはりこれも大きな課題だと思っている。何ができるかということはプランの中である程度位置づけをした上で、次に生かしていければいいと思う。
--	--

(2) 武蔵野市多文化共生推進プラン（仮称）中間のまとめのパブリックコメントで寄せられた意見の取扱いについて

C委員	<p>パブリックコメント9ページの9-5、「戸惑いを感じる市民」などの「市民」は明らかに日本国籍市民を指しているのではないかという意見で、対応方針もそれを認めているように書かれているが、私はそうは思わなくて、外国人市民の方の中にも、多文化共生に不安や戸惑いを感じている人もいる。以前、在日コリアンの友達から、母が「最近外国人が増えて怖いわ」と言った、あなたも外国人だろうと思ったが、どう思う？と悩み相談を受けたことがあった。戸惑いを感じている人を日本国籍市民だけに限定しないほうがいいのではないか。対応方針にあるとおり、「市民」はいずれも含む言葉なので、「表現について精査します」とあるが、別に日本国籍市民に限らず、外国籍市民の中にも不安や戸惑いはあるだろうと私は認識している。対応方針としてはどちらなのか気になった。</p> <p>それから、13ページの9-19、不安や戸惑いの対象の話で、この表現だと、外国人の方が、自分の存在が不安に思われていると感じないか、という意見。中間のまとめの15ページを見ると、「多文化共生に関心が強い市民だけでなく、関心の薄い市民や、不安や抵抗を感じる市民」となっていて、外国人が増えることというよりは、多文化共生に対して不安や抵抗を感じるという文言だと思うので、表現を変える必要はないのではないかと思う。パブリックコメントのご指摘のことはよくわかるし、外国人が増えることに対して不安や抵抗を感じるという人もいるかもしれないが、ここで表現していることは、多文化共生社会に関心がある人と多文化共生社会に不安や戸惑いを覚える人、という書きっぷりと私は読み取った。</p>
A委員	パブリックコメントは、誰でも意見できるのか。市外の方もできるのか。それとも市民に限定されているのか。
事務局	誰でも出すことができる。ただ対応方針を出すのは市民（在住・在勤・在学）ということになっている。
A委員	今回、市外の方からも意見は寄せられたか。
事務局	今回の12名は、いずれも在住市民だった。
A委員	ヘイトスピーチの条例について、川崎市と連携してという意見があったと思うが、過去に議会や何かの委員会で、武蔵野市で条例について検討されたことはあるのか。

事務局	<p>正確には承知していないが、条例を作ろうということになったことはないと思う。ただ、議会でヘイトスピーチに関する質問はあった。</p>
A委員	<p>パブリックコメントは的を射た指摘が多かった。特に文言についての意見で、賛同したいと思ったのが、10 ページの 9-8、多文化共生・交流課は市役所の下層階にあるべきという意見。私も以前マイナンバーカードを受け取りに行った先が8階の人気のないフロアで、ちょっと寂しい感じや、わかりにくさ、使いにくさを感じたので、外国籍の市民の方にはよりわかりにくいと思うのと、下層階に対応窓口があったほうが良いと思うのが一点。</p> <p>もう一点は、19 ページに防災についての意見があった。第六期長期計画調整計画の策定委員会に出ていて、私は平和・文化・市民生活の分野の担当になっているが、その中に防災が入っている。理念は掲げてあるものの、具体策、例えば配慮が必要な方に対する対応について、障害者、高齢者、児童、妊婦それぞれに対する具体的な対応までは検討されていないということだった。担当として責任を持って、外国籍の市民の方たちについても理念だけにならないように発言していきたいと思う。</p> <p>それから、「武蔵野らしさ」とは何かという意見が結構あったと思うが、私は勝手に、本気でやるということ、思い切ったことをやること、独自の政策をやること、というようなところが、「武蔵野らしさ」なのかなと思っている。例えば、小中学校で、人権に関するプログラムや、多文化共生に関するプログラムができないかと思った次第だ。できるのであれば明言して、小中学校でそういった理解が深まることをやることこそが「武蔵野市らしさ」なのかなと思う。</p>
D委員	<p>痛いほど素晴らしい意見ばかり。これだけたくさん寄せられた意見は、どう使われるのか。まとめてどこかに載るのか。</p>
事務局	<p>今日お配りした資料は、この後、ホームページにもこの形で掲載したい。また、対応方針にあるとおり、意見を受けてプランを修正するかどうかということに使っていく。</p>
B委員	<p>私もまずこの意見の分量に驚いた。そのあと、意見を提出したのが12人というのを見て、両方の側面で驚いたが、この分量を12人の方が出してくれたというのは本当に真剣に読んでいただいたという証左だと思う。逆に言うとそれだけ強い関心を持っていただいている方がいらっしゃる。そういう市民の方々の意見を大事にしてもらいたいと思った。寄せられた意見を懇談会の記録とともにホームページに載せるなり、あるいは最後のプランができたときに、そういう意見があったということに掲載することは非常に重要だと思った。</p> <p>それから私も多文化共生・交流課を下層階へ置く話は、そうだろうなと思</p>

	<p>った。お店でも、1階にあるかどうかで人の入りが違うというのは非常にある。ワンストップの窓口を設けてたくさんの外国人に来てほしいと思うのであれば、できるだけ下層階で行きやすいところというのは本当にそのとおりだと思った。</p>
E委員	<p>武蔵野市国際交流協会はビルの9階にある。M I Aにも気軽に足を運んでもらえるといいなと思いながら聞いていた。</p> <p>「M I Aの認知度が低いから、いらぬのではないか」とか、「ボランティア頼りではない取組みが必要なのではないか」という意見があったと思うが、ボランティアの方が入っているということは、市民に活動を広げるのものすごく有効な部分でもある。やるべきことはきちんと財政支援していただきながらやる。市民の方がたくさん関わっているということは、私たちが一番誇りに思っている部分なので、ボランティア頼りだからないがしろにしているという意味ではない、ということも入れていただきたい。</p>
F委員	<p>私も9ページ、9-5についてのC委員の見解に考えさせられた。このプランが指針を示すものならば、現状を打開し、良いまちを作っていくうえで「市民」という言葉は全てを内包していると思う。この意志をしっかり持たないと、全てがぐらついていくのではないかと、この9-5の意見についての見解が、自分の中でもそのとおりだと思ったということを言いたい。</p> <p>M I Aの話に戻るが、武蔵野市国際交流協会の素晴らしいところは、日本人がたくさんボランティアをしているからではなく、外国人もたくさんボランティアをしていて、一緒にやっているところだ。決して支援をしてもらうためにM I Aに入っているわけではなく、相互に助け合っているから素晴らしいということだと思う。そこをこのプランの中核に持ってこない、「美辞麗句が並んでいる」という意見もなるほどその通りだと思う。</p> <p>「武蔵野らしさ」とか誇りとか、ちょっとどうかとも思うが、M I Aの素晴らしさは中核に持ってくるべきことだと思った。</p>

(3) 令和4年度武蔵野市民意識調査（速報版）について

D委員	<p>外国人として、この結果を見て嬉しいところだが、1点だけ。51ページの問33で、東京都の方がマイナスの割合が高いという説明があって、東京都のパーセンテージを見ていないので何とも言えないが、武蔵野市でも、2位から5位は誤差の範囲内なので、この4つは、ほぼ一緒に2位という解釈のほうがいいかなと思った。</p>
E委員	<p>ほかの調査もそうだが、この結果を見ても、当の外国人の方は案外困り感がない、困っていないのではないかと結果が出る人が多いと感じているが、むしろ日本語を勉強してほしい、地域の生活習慣、ルール、文化を知</p>



	<p>ってほしいというのは、日本人の、地域の側の願いなのではないか。外国人の方に日本の文化、習慣に歩み寄って欲しい、知ってほしい、同じようにしてほしいというのが、地域の願いだとすると、例えば日本語の学習をしてほしい、地域のことを知ってほしいというときに、外国人の人たちに、自分で何か探して、情報にアクセスしてきてくださいというのではなくて、こちらから届けていくという姿勢が必要なのではないかと感じた。そのようなことをプランに盛り込めるといいなと思う。</p>
B委員	<p>出先で手元に前の資料がないので間違えているかもしれないが、武蔵野市に住んでおられる外国人の中で、言葉に困っている人の割合は意外に少ないと思ったのを覚えている。要するに、割と長く住んでおられる方が、武蔵野市は多いのかなと思う。逆に言うと、ネガティブな選択肢を選ぶ人が少ないということについても、割と溶け込んでおり、周りの方が安心しておられる部分があるので、結果に違いが出ているのかなと思う。割と長く住んでいらっしゃる方が多い、あるいは長く住んでくれるまちに、さらにしていくためにどうしたらいいのかという視点はあってもいいのかなと思った。</p>
A委員	<p>先ほどE委員がおっしゃったことと重なるが、問30の「地域の生活習慣、ルール文化等を理解してほしい」というのは、具体的にどういうことを望まれているのかを知りたいと思って、それを知ったから外国籍市民の方たちに覚えてもらおうということではないが、一方で外国籍市民の方たちが、慣習としてわからなくて、こういったことを知りたかったというようなことについても調査が必要だと思っていて、両者の擦り合わせができると、有益な情報提供に繋がっていくのではないかと考えた。</p>
F委員	<p>二点ある。一つ目は、今E委員が言われたことに関連しているが、市民の方が60%以上知ってほしい、教えてあげてほしい、わかった方がいいとおっしゃるのであるし、パブリックコメントや中間のまとめで、もっと生活オリエンテーションをした方がいいということを出しているわけだから、そこを連動させればいいと思った。日本語も、もっと学んだ方がいい、まだ学んでほしいと思っていらっしゃるなら、学ぶ機会を提供していけばいいわけで、連動してこういう力強い意見を活かして丁寧に取り組んでいく姿勢が大事かと思う。市民は圧倒的に90何%が日本国籍の方々だから、その辺をうまく組み合わせることが大事。</p> <p>二点目は、この調査には平和についての設問もあって、平和の具体的な取り組みについての設問もあるが、そこでは32.2%の人が「異文化、習慣に触れる機会を設けるなど、多文化理解を深めること」を選んでいる。「平和」という視点も大事かもしれないと感じた。</p>
C委員	<p>先ほど話題に出た「武蔵野らしさ」が、この調査と東京都の調査結果とを</p>

	<p>比較することで出てくると思う。一緒に働くというよりは一緒に暮らすという傾向とか、国際性のところでスコアが高いという印象があったので、この調査の結果を「武蔵野らしさ」を語るうえでの根拠にするといいと思った。</p> <p>外国人と関わることについて、「どちらともいえない」がすごく多いのが気になり、変な言い方かもしれないが私には意外だった。やはり関わりがないと、接点がないと、「どちらともいえない」の割合が高くなるので、意外と武蔵野の方は、外国人の方と接点がないのかもしれない。ネガティブな回答も少ないが、「どちらともいえない」がこんなに多いのは、関心がないのか、少し残念な数字だと思った。とはいえ、プランを作って3年後、5年後にどうなったかがとても重要なので、これはこれでスタート地点として認識しておいて、今後プランができて施策が進んでいく中で、このデータがどう変わるのか。例えば5年後、10年後に「どちらともいえない」を選ぶ人が少なくなり、プラスに捉える人が増えるといいと思う。東京都と比較して「どちらともいえない」が多いので、外国人住民と日本人との接点を増やしていく施策をしっかりとやらなければいけないというのはこの現状からは言えることではないか。</p>
E委員	<p>今のC委員のご意見に関連するが、「地域の日本人に関わりたいか」という質問はあったのか。つまり、武蔵野市民が外国人とだけ「関わりたくない」、「どちらともいえない」のか、それとも、そもそも日本人の市民同士も含めてあまり関わり合いになりたくないと考えているのかが比較できるいいと思った。割と近所づきあいが少ないのかもしれない。</p>
G委員	<p>武蔵野市の特徴なのかどうかはわからないが、かつてに比べて、ご近所付き合い、お隣同士との付き合いが少なくなってきていて、外国人・日本人関係なく、結びつきが薄らいでいる印象は正直ある。先ほどのC委員のお話のとおり、やはり実感がないのだと思う。外国人が関わりを希望したとしても、関わるということの実感がないので「どちらともいえない」になってしまっているというところがあるのではないかと。東京都の調査と比較しても、東京都全体の人たちが外国人と関わっているレベル感と、武蔵野市のレベル感との違いなのかなと思う。先ほどE委員がおっしゃったような、日本人同士のお付き合いについても調べられたら調べたいと思う。</p>
C委員	<p>「仕事で付き合いがある」と答えている人が東京都の調査結果では多いので、武蔵野の場合は職場での接点は薄いのではないかと推察できるかなと思うが、それ以上は憶測でしか書けない。東京都と比較するという意味では、一つ特徴としては触れていいと思うが、それ以上の推測は控えた方がいい気がする。</p>
D委員	<p>問 32 のところで、外国人が地域の一員として生活するうえで、64.6%が</p>

	「地域の生活習慣、ルール、文化等を理解してほしい」と答えているということは、私はポジティブに捉えてもいいかなと思う。
事務局	東京都の調査と比較するうえで、都の調査は平成30年（コロナ禍前）に行われたものである点も考慮する必要があると思っている。

(4) プランの名称について

A委員	他の自治体で、この名称を使用しないところがどういう名称としているのかを知りたい。自分の経験として、横浜市の再犯防止推進計画を作ったときに、あえて柔らかい、わかりやすい名称にしたということがあり、それは個人的に良かった。「武蔵野市多文化共生推進プラン」が良くないということではないが、例を知りたい。
事務局	「基本方針」、「指針」、「ビジョン」といった名称がある。「プラン」を使う自治体が多いが、「推進計画」を使うところもある。
A委員	「多文化共生推進」まではほとんど一緒ということか。
事務局	「国際化計画」というところもあるが、ほとんど一緒。
C委員	私はこのままで大丈夫かと思う。
F委員	C委員がご専門だと思うが、「プラン」、「推進計画」、「基本方針」は意味が少しずつ違うものなのか。
C委員	「プラン」と「推進計画」はあまり変わらない。英語で言うか日本語で言うかぐらいの話。その自治体が他のプラン等でどう表現しているかに合わせることが多い。ただ、「ビジョン」になるとあまり具体的なことは書かず、大きなビジョンだけを書いている。今回だと「プラン」か「推進計画」が馴染むのではないかと思う。
F委員	たぶん「推進計画」にすると第六期長期計画と「計画」という言葉が重なってしまうというのもあると思うので、「プラン」というのも一つかと私も思った。
事務局	他の委員の皆様もよろしければ、懇談会としては仮称をとるということで、承りたい。